

◆柳下礼子委員

では、質問いたします。

本日は、歳出予算の事業概要8ページの人権施策推進費にかかわって、LGBT、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー、性的マイノリティーの人権保障について質問させていただきます。

先日、私はLGBT当事者や支援者の方から、直接お話を伺いました。LGBTへの様々な差別や偏見が残る中、それぞれの方が、私は男性の同性愛者です、大学を卒業してゲイを家族に公表しました、私は性同一障害です、女性に生まれましたが性転換をして男性として生きていますなどと、LGBTであることを堂々と話す、その勇氣にすごく感動しました。参加しました皆さんが、多数派の異性愛者と同じ人間であり、LGBTが差別されることなく当たり前の存在として生きられるような社会にしてほしいと強く訴えられていました。LGBTへの差別や偏見をなくすことが、一人一人の生を尊重する社会につながる大事な課題だと改めて認識しました。

御存じのようにLGBTの差別の解消や権利の保障を目指す動きが、国内外で大きく広がっています。日本では、国会のLGBT議連による立法化や、渋谷区などの同性パートナーシップに関する証明書発行の動きが始まっています。アメリカでは2015年6月に連邦最高裁判所が、同性婚を憲法上の権利として認める画期的な判断を下しました。

埼玉県は県職員へのLGBTに関する研修などを始めたとのことですが、世界や国内の変化を見ても、率直に言って県の取組は大きく遅れていると思います。人権保障の問題として、県政がLGBTにもっと光を当てて取り組むべきではないでしょうか。

今年度はどのような取組をしていくのか、併せて答弁を求めます。

◎県民生活部長

今年度の具体的な事業につきましては、人権推進課長のほうからお答えをさせていただきます。

◎人権推進課長

今年度の取組につきまして、まず研修でございます。市町村や企業人事担当者への研修につきましては、県では市町村職員や民生委員、児童委員、人権擁護委員を対象に、LGBTなどの性的マイノリティーの人権をテーマにした研修を平成26年度に開催しております。そこでは、200人の参加をいただきました。また、企業につきましては、27年度に県内4会場で企業の管理職、人事担当者を対象にLGBTをテーマにした「企業 人権担当者 研修会」を開催し、約400人の参加をいただきました。また、企業の幹部を対象に、これは毎年やっておりますが、埼玉労働局職業安定所と連携し、開催しています、「企業トップクラス・公正採用選考人権啓発推進研修会」を開きまして、LGBTへの理解と職場への対応をテーマに研修を実施しております。

また、啓発につきましては、人権啓発冊子につきまして、啓発冊子の作成やイベントを開いております。これらのことにつきましては、今年度につきましても、啓発冊子、あるいはイベントを行いまして、事業を進めていきたいと思っております。

28年度の事業についても、同じようにやらせていただきたいと思っております。

◆柳下礼子委員

冊子を作ったり、啓発活動をするということで、研修もするということですが、私は先日お会いした当事者の皆さんから、臨時職員として教育現場で働いたときに、先生が、おまえホモかと言って子供たちの笑いをとった、すごくショックだった、自分の住む市では数千人の職員がいるが、職員の中にはLGBTがいるかも把握していない、市役所でもカミングアウトできる状況にないと訴えておられました。まだまだこのような実態が当たり前なだと思います。

だからこそ、LGBTへの差別や偏見のない職場環境をつくるためには、担当者はもとより、組織のトップに対する研修ももっともっと力を入れるべきだと思います。今後も、自治体関係者、企業の人事担当者への研修会を拡充していくと思いますけれども、今年度は、具体的にどのような研修会を開くんでしょうか。そして、特に自治体、企業の幹部の意識を変えていくという点では、今年度、どのような計画がありますか。

そして、県としては独自に、この人権のパンフはありますけれども、独自にパンフは作っておりませんよね。国では作っておりますけれども。その点については、どう考えておられるんですか。

#### ◎県民生活部長

先ほど人権推進課長のほうが申しあげましたけれども、企業や自治体の幹部職員への研修につきましては、今年度も引き続きまして、埼玉労働局、それから職業安定所と連携をいたしまして、「企業トップクラス・公正採用選考人権啓発推進研修会」におきまして、LGBTの理解と職場の対応についてをテーマとして取り上げまして、研修を実施していきたいと思っております。

独自のパンフレットということですが、県で作っております人権関係のパンフレットにつきましては、先生御存じのとおり、LGBTは17分の1でちょっと小さいんですけども、今後パンフレットを見直すに当たりまして、しっかりと1つの項目を設けるとか、あるいはLGBTの相談窓口、心の相談ですとか、あるいは医学的な相談ですとか、法的な相談ですとか、どこにかければそういった苦しみを相談できるか、そういった窓口の掲載なども考えております。

#### ◆柳下礼子委員

是非、独自のパンフレット、そして相談窓口、しっかりと取り組んでいただきたいと思っております。

社会にLGBTへの差別や偏見が根強く残っております。LGBT当事者の人権への理解を広げる活動は、本当に私は重要だと思っております。13人に1人がLGBTと言われ、身近な家族や友人、隣と同僚らがLGBTだったとしても、全く不思議ではありません。しかし、差別やいじめを恐れて当事者は声を上げられないために、ほとんどの県民にとって、身近に存在する人たちとは認識されておられません。世界人権宣言の第1条は、「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。」とし、国連では性的マイノリティーの人々に、それ以外の人々が享受する権利と同じ権利を認める決議がなされております。

そういう国際的な人権保障の流れの観点で、LGBTの人権を尊重し、当事者を励ます、分かりやすい独自のパンフレット、そして県民向けのポスター、更には当事者のお話を直接聞くなど、こういうことをしっかりとやっていただきたいというふうに思います。

当事者の直接ヒアリング等について、考えておられますか。

#### ◎県民生活部長

職場、あるいは学校現場、日常生活などでの差別や偏見について、LGBTの当事者の皆さんから直接お話を聞くこと、これは非常にLGBTを理解する上で、是非とも必要なことだというふうに思ってお

ります。県といたしましては、このLGBTの取組を進めるに当たりまして、直接、これまでLGBTの皆さん方との団体との接点はありませんでした。今回、成人式の後援申請がございました。この団体等を通じて、当事者団体からも今後ヒアリングをしていきたいというふうに考えております。

◆柳下礼子委員

今、部長のお答えの中で、これまで接点がなかったということで、今年2月に行われた「LGBT成人式@埼玉」には、当事者ら140人ほどが集まって、思い思いの服装で新たな門出を祝福したそうです。ふだんは孤独感を持って暮らしているわけですがけれども、このときには本当に140人も集まって、実績はないということで断られたから、逆にたくさん集めなければと思って集めたので、今度実績ができたから、今度はきちっと来年はできるねというふうにおっしゃってございましたけれども、こうした取組など、県は後援したり、これからも協力し、支援していく考えは当然おありだと思いますけれども、確認の意味で、今後の方針、成人式に対する考え方、お願いいたします。

◎県民生活部長

今回の成人式の後援につきましては、知事も記者会見で申し上げましたけれども、主催者団体の「ing!!」からお話を伺ったときに、広報の仕方ですとか参加料、あるいはどれぐらい参加する人が集まるのか、こういったこと、初めてなので分からないというお話だったんです。県で後援をする場合には、後援の事務処理要領がございまして、その辺を確認した上でないと後援できないという仕組みになっております。その旨、そういう状況では後援が難しいんですというお話をしましたところ、その「ing!!」さんから、次回、委員お話ししましたように、申請できるようにデータをそろえるというふうなお話がありました。今回は申請を見送るというふうなお話だったんです。

来年というか、次はどうかというお話ですがけれども、もし申請がありましたら、成人式の状況、今回140人集まったということでございますので、その辺の状況をよくお伺いしまして、後援をできることであれば、しっかりしていきたいというふうに思います。

◆柳下礼子委員

ありがとうございます。きちんと後援できるようにしていただきたいと思います。

特に若い人たちは、社会的経験がなかったり、自分たちがLGBTだということで、非常に、カミングアウトして自分の性のいろいろな悩みや、そういうものも明らかにしてきているわけですがけれども、そういった社会経験がなかったり、勇気がなかったりとか、いろいろな問題を持っていますので、きちんと励みながら、しっかりと関係をこれからつくっていただきたいと思います。

そして、予算については、今、十分あるんですか。人権一般ではなくて、この問題について。最後にお聞きしたいと思います。

◎県民生活部長

LGBT対応の予算ですがけれども、LGBTの皆さんに向けた啓発とかという形での予算の要求というお願いはしておりません。人権を守るための予算としてとっている中で、その中で対応をしていきたいというふうに考えております。

◆柳下礼子委員

いろいろ言いましたけれども、埼玉県がLGBTに対する偏見や差別を積極的になくす立場で頑張るというお話でしたので、多様な尊重する社会の実現を目指す条例制定についてお願いしたいと思います。